

「今日を失うな」 ～オリゴピストイではダメ！～

マタイ 6:19～34

みなさんは、地球が明日滅亡するとしたらどうしますか？宗教改革をしたマルティン・ルターは「たとえ明日、世界が滅びようとも、明日、リンゴの木を植えよう。」と言っています。ルターは「たとえすぐに実らないもので自分も希望をもって植える」という思いでこの言葉を書いたのではないのでしょうか？その思いで宗教改革が起こったのです。ここに込められる意味は「希望を見いだせない時に自分はたとえ一人でもこの希望の芽を刈り取らない」と言う信念です。以前語られた「神さまと向き合う・自分と向き合う・隣人と向き合う」ことは、今日1日を大切に過ごすと言うことです。(マタイ6:19～34)この「信仰の薄い人たちは」はギリシャ語で「オリゴピストイ」と言います。私たちは、オリゴピストイではいけません。こうになってしまう全ての理由は「信仰が薄い」からです。目が光を失う(22・23節)のはどうしてでしょう？それは、私たちの目がこの世の欲に曇らされるから体が暗くなるのです。人は他人とコミュニケーションをとるために相手の態度や言動を見て行動しています。その目が暗くなると言うことは、私たちがこの世のものに目が向きすぎてこの世の現実が私たちに押し迫った時に明日の心配をしてしまう、つまり信仰を見失ってしまうのです。例えば、家を建てるために毎日の食費を削って食生活を送って家を建てて、今度はローン返済のために倹約をする…何のためですか？食費を削ることや倹約することが悪いではありません。ここで言いたいのは結果と目的を過ってはいけないということです。聖書が言う「体を暗くする」は、こういうことです。将来の結果のために今を大切にしない人生です。上であげた例で言えば、本来「食」とは私たちの健康を守る、そして子ども達の成長にとってなくてはならないものです。家のローンの為に犠牲になるものではありません。倹約することも同じです。目的のない結果からでは何も見出すことはできません。苦労があってその積み重ねがあってこそ大きな結果がついてくるのです。世の中においても、聖書の中でも何の為にを見失わずプロセスを大切にしたら成功者は讃えられます。聖書には「天にたくわえなさい」と書いてあります。(20節)オリゴピストイ(信仰の薄い人たち)と言う表現はマタイの福音書で6:30以外に3回出てきます。8:26と14:31と16:8です。なぜ私たちは疑ってしまうのでしょうか？「すべての必要を知っている天の父を信じているはずが、実際に困難に出会うとその信仰が機能しなくなる。だから問題や困難を見るのではなく、神に向かうことが重要である。その時、本当に心配しなければならないことは、別のところにあると気付かされる」本当に心配しないといけないことは「いのち」だと書いてあります。(25節)でもなぜ「いのち」以外のことで心配してしまうのでしょうか？なぜ機能しなくなるのでしょうか？それは私たち自身の性格の問題ではありません。信仰の問題です。信じていない・信仰の薄い人・オリゴピストイになっています。私たちが小さなからし種の信仰をもつ、すなわち神の国とその義とを第一に求めること(33節)は、神の御心にたつと言うことです。これを行うことができれば、それは達成されます。ですから、信仰の薄いものにならないために①**神の国とその義**とを第一に求めなければなりません。これは神さまとの関係です。神の国とその義を求めると言うのは「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」(マタイ22:37)「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」(マタイ22:39)と言うことです。私たちの隣人を自分自身のように愛するためにまず神さまとの関係を第一にしているのでしょうか？神さまと関係をもつ部分は「今」だけではありません。私たちは「今」の自分と神さまとが向き合うことはできます。私たちが今日私たちの目的を果たすこと、それは私たちにとってとても大事なことです。だけどそれは将来があるからです。私たちがこの世の結果に目を向けるようにさせるのは悪魔の誘惑です。この世の結果を求めることが私たちの人生を暗くするのであれば私たちは神さまから志を受けているので神さまと向き合って「今」神の国とその義と御心を第一にしなければならぬ…じゃあ神の御心を第一にするというのはどういうことなのかと言うと、今の一日一日を大切に過ごさなさいと書いてあります。(26～29節)神さまの許可無く終わる人生はありません。たとえ明日地球が滅亡と言われても神さまの許可無く死ぬことはありません。ですから私たちは最後の時にはルターが言ったようにリンゴの木を植えなければなりません。私たちに決まった明日はありません。それを私たちは「自分の人生はこうだ」と決めてしまいます。だからそれに見合わない事が目の前に起こると信仰なんて要らなくなってしまいます。私たちは明日になって振り返ってみると「神さまがいてくれたこと」を確認することができます。しかし先(未来)に対して備えて下さっている神さまを信じることにはなかなかできません。幸せな時には「神さま感謝です」と言い、ちょっと嫌なことが起こると「神さま、いてくれたのになぜ？」となります。私たちは「この部分では神さまを信じるけどあの部分では信じない」と言うことがたくさんあります。だから神さまは「信仰の薄い人たち」と言っています。今回ぜひ私たちの信仰の薄い部分を解決しましょう。自分を愛する者を愛したからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。自分に良いことをしてくれる者に良いことをしたからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。返してもらうつもりで人に貸してやったからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。(ルカ6:32～35)聖書はいつも言っています。信じられないことを信じる。これが信仰です。神さまとの愛の関係を築きましょう。それは御言葉を合わせると言うことです。自分に都合の良いところだけ引っ張ってくるのではなくて神さまが語られていることを最初から最後まで…そして今日私たちに「せよ！」と書かれていることをやることです。どのようにするのかというと②**結果に生きない**ことです。私たちが今の結果に目を向ければ信仰は薄くなります。例えばマルタとマリヤの友ラザロが死んでしまって悲しんでいるのを見て神さまは「憤った」と書いてあります。(ヨハネ11:33)信仰が薄いから憤ったのです。なぜ信じることができなかったのでしょうか？それは、病を癒すことができ、足なえの人が立つことができるようにされた、でも死んだ人を生き返らせることはできないと思っているからです。私たちの信仰は条件付きです。だから今回私たちはその条件を捨て去るべきです。世の中の情報に振り回されて神さまの御心を見ずにどうでも良いところに目が向いているのです。私たちは目で見たものを潜在的に受け止めて「こうなんだ」と確認して信じきってしまいます。しかしそれではいけません。「神の御心になるように」と祈るべきです。その問題が自分が受け取るべきでない神さまに言われたのならそれと向き合うべきです。神の国とその義とを第一にするべきです。将来のために今を犠牲にしてはいけません。終わることを前提に過ごしてはいけません。目的のために今日を大切に生きることは大事です。だから③**積極的に今日を生きなくてはいけません**。小さいことを積み重ねることが大切です。大事なものは「今の積み重ね」です。今日を大切にすることです。労苦はその日その日に十分あると書かれています。(34節)明日には明日、私たちに力が与えられます。私たちに今日の今日を大切に生きて神さまのために頑張った人には必ず神さまの栄光が現れます。大切なものは神さまの御心を行うことです。その日その日に今日神さまが「しなさい」と言われたことをやるということ。それをせずに「まあ明日やればいいや」と今日を適当に過ごす積み重ねができず実を刈り取ることもできません。神さまがしなさいと言っていることは、無理にするようなことではありません。その日その日にそれだけを真剣にやればよいと言っているのです。結果はまだ先です。リンゴの木も実がなるまでに10年かかります。今が答えではありません。プロセスをふんでいる間に良いことだってたくさんあります。それを第一にしていればそれらの必要は必ず与えられるのです。世の中は目先のことに捕らわれてその日その日の結果を喜んで行っています。しかし、私たちが、今日一日を大切に過ごせばこのような環境は変わります。私たちは、そのように歩みたいと思います。

(要約者：行司佳世)